平成２８年度道徳教育実践研究事業実績報告

１　研究指定校の概要

指定校名	徳島市佐古小学校
校長氏名	國友博司
所　在　地	徳島市南佐古四番町 1 番 32 号
電話番号	088 -622-7878
Ｕ　Ｒ　Ｌ	http://e-school.e-tokushima.or.jp/tokushima/es/sako/html/htdocs/

２　研究課題

（１）　研究主題

豊かなかかわりを通して自己の生き方について考えを深める道徳教育
～自ら考え，主体的に行動できる子どもの育成～

（２）　設定理由

本校の児童は，素直で明るく，何事にもまじめに一生懸命取り組む児童が多い。これまで本校では，特別支援学級や外国籍の児童とも心をつなぎ仲間意識を育む体験活動を実施してきた。特に音楽的・体育的な活動には，積極的に参加し活発に活動している。こうした活動を通して，人とのかかわりを大切にする心情が育ってきつつある。

一方，児童の実態として，困難なことに出会うと自らの力で前向きに乗り越えようとしない場面が見られる。また，決められたことや指示されたことはできるが，自分で考え行動することが難しかったり，失敗をおそれて挑戦することをためらったりすることもある。このように，自主性が乏しいのは，自分自身に自信がもてず，自尊感情や自己肯定感が十分育めていないこととかかわっていると考えられる。また，あいさつの習慣や人とのコミニュケーション力が十分身についておらず，相手の立場に立って考えることや，規範意識など道徳的な望ましい行動についての価値理解はできているが，日常生活での実践には結びついていないという課題もある。

体験活動には，豊かな人間性，自ら学び，自ら考える力などの生きる力の基盤，子どもの成長の糧としての役割が期待されている。豊かな体験活動の中で，周りの人とのかかわりを深め，思いやりの心を発揮する中で，自ら考えて行動したり，主体的に行動したりできるようになると考える。また，多くの人との豊かなかかわりを通して，自分や友達のよさに気づき，自尊感情や自己肯定感を高めたり，集団の中での規範意識を高めたりすることができると考える。

そこで，本校の豊かな心を育むための目標である「思いやりの心の育成」を各学年の重点目標に設定し，全校で取り組む体験活動や「道徳の時間」の充実を図ることにより，研究主題に迫りたいと考えた。道徳の時間においては，児童が各々にもつ思いや考えを交流し，自己を見つめることができる指導方法を工夫することで，自己の生き方についての考えを深めさせたい。また，道徳の時間と体験活動を効果的に関連させることにより，児童の道徳的価値の自覚を深め，道徳的実践意欲を高めていきたいと考え，本主題を設定した。

３　研究の概要及び特色

（概　要）

道徳の時間に学んだ道徳的な価値の理解はできていても，具体的な行動が伴っていない場面が見られることから，道徳の時間に，自分とのかかわりで道徳的価値を捉えさせ，自らの体験を通して，道徳的価値の意味や大切さなどを考えることが必要である。そうすることにより，実生活の中での行動へとつながる道徳的実践力を高め，よりよい生き方を主体的に実現していくことができると考える。

（１）　全校で取り組む体験活動を通した道徳教育
　　①あいさつの活性化を目指して
　　②学校行事等の取り組みを通して
　　③家庭・地域との連携を通して

（２）　「道徳の時間」の充実
　　①指導方法の工夫
　　②体験活動との効果的な関連
　　③授業力の向上を目指して

（特　色）

（１）　全校で取り組む体験活動を通した道徳教育

①あいさつの活性化を目指して

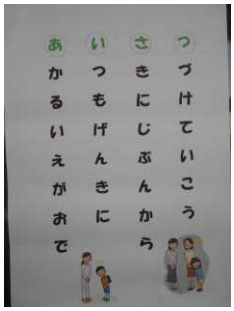
「あいさつ」の活性化に全校で取り組み，親切・思いやり，感謝，礼儀，友情・信頼，相互理解・寛容等の道徳性を養うとともに，自主性や自己表現力，コミュニケーション力，自己決定力等の実践力，また自己有用感，自己肯定感，自尊感情などを高めていきたいと考えた。

（具体的な実践）

○全校で足並みを揃え，全校児童のあいさつを活性化するため，２学期最初の道徳の時間に，全学年・全学級で「礼儀」の内容項目で「あいさつ」についての授業を実施した。

○学級・学年での児童の実態に合わせたあいさつの指導を工夫し，児童の意欲を高めた。（めあての設定・あいさつのレベルづくり・意欲を高める掲示など）

○学年ごとに曜日をかえて，なかよし委員会と一緒に行うあいさつ運動を実施した。



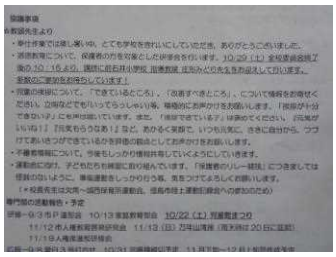
あいさつの
合い言葉

あいさつの掲示

なかよし委員会と一緒に
行うあいさつ運動

○全校朝会で，学校長や生徒指導主事が，あいさつや思いやりの大切さについて繰り返し話をし，児童の意識の向上を図った。
○ＰＴＡだよりで，保護者に児童のあいさつについての評価の観点を示し，児童のあいさつについての情報を学校に届けてくれるよう依頼したり，「いってらっしゃい」などの児童への積極的な声かけをお願いしたりした。
○お昼の校内放送で，放送委員会が，朝の立哨指導をしてくれている保護者のあいさつについての感想や校内のあいさつのよい変化について知らせたり，繰り返し「あいさつの合い言葉」を発表したりして，意欲の継続や向上を図った。

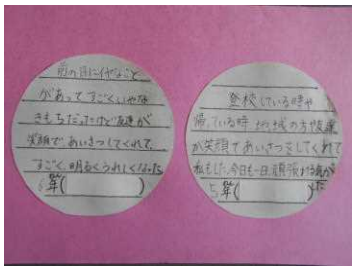
朝会での学校長の話


ＰＴＡだより
（あいさつの評価の観点）

あいさつについての
校内放送

○あいさつをされたり，あいさつを返してもらってうれしかったことなどを，全校児童が「あいさつカード」に書き，廊下に掲示したり，給食時の放送で紹介したりすることで，あいさつの意味や大切さが実感できるようにした。
○なかよし集会では，なかよし委員会が，あいさつをすることの大切さや，相手の気持ちを考えた言動をする思いやりの素晴らしさについて，劇を交えながら分かりやすく発表し，質の高いあいさつをしようとする意欲を高めた。

あいさつの木


あいさつカード

なかよし委員会による
なかよし集会

あいさつの活性化に全校で取り組むことにより，児童に様々な変容が見られた。あいさつの指導を工夫し継続することで，「あいさつをしよう」「あいさつをしたい」という意欲が高まった。あいさつをすることが，今まで関わりの少なかった友達ともかかわるきっかけとなり，コミュニケーション力の向上にもつながった。また，多くの児童が，学年の枠をこえて，なかよし委員会とのあいさつ運動に参加することで他学年とのかかわりができ，自主的にあいさつができる児童が増えた。あいさつ運動がきっかけとなり，学級や学年でのあいさつの輪も広がり，学校以外の場所でもあいさつができる場面が増えた。そして，あいさつをしたりされたりした時のうれしい気持ちを実感したり，あいさつが増えたことを評価されたりしたことにより，さらにあいさつをしようという意欲が全校児童に広がっていった。

②学校行事等の取り組みを通して

○全校音楽集会（スマイルタイム）

本校では，月Ｉ～２回のペースで，スマイルタイムという音楽集会を実施している。全校児童・職員が体育館に集まり，共に歌ったり互いに聴き合ったりすることで感動体験を共有し，互いのよさを認め合って心をつなぐことをねらいとしている。活動後の感想では，「高学年の歌を聞いて，さすがだと思った。わたしもあんな歌声で歌えるようになりたい。」「こつこつ練習してきた成果が出せてうれしかった。よくがんばったと思った。」「全校合唱では，みんなの心が一つになった気がして，とても気持ちがよかった。」などの記述が見られた。自分や友達のよさや可能性に気づき，達成感を味わい，自己肯定感を高めることができる機会となっている。このように全校が一丸となって取り組む音楽集会の活動を積み重ねることで，「美しい音楽に触れ感動できる子ども」「自分や周りの人のよさを認め大切にできる子ども」を育成していきたいと考えている。

○異学年集団による運動活動（愛日タイム）

毎週火曜日に，朝の活動として６年生が中心となり，異学年集団のグループで運動や遊びを行う「愛日タイム」という活動を実施している。６年生を中心に高学年の児童が，活動の企画・運営を行い，運動や遊びの準備をしたり，ルールを説明したりして，助け合いながら活動している。また，運動や遊びをグループ全員が楽しめるよう，活動内容やルールを工夫し,高学年がリーダーとしての役割を果たしている。下学年は，高学年の話をよく聞き，素早く整列したり，話し合いで決めたことに協力したりして活動している。この活動を通して，周りの人への思いやりの心や助け合ったり協力したりすることの大切さを実感させ，集団の一員としての自覚を高めさせたいと考えている。

○朝のボランティア清掃

朝，６年生や環境委員会を中心に，全学年でボランティア清掃を行っている。児童一人一人が，自分たちの手で，学校を美しくしようとする態度を養い，仕事を分担し，責任をもって活動することにより，集団の一員としての自覚を高め，愛校心を育んでいる。

豊かな感性を培う音楽活動

金管バンド部

合唱部

体力向上や仲間づくりを目指して

朝の運動教室

③家庭・地域との連携を通して

教育に対する関心が高く本校の教育活動に協力的な保護者や地域の方々に支えられ，児童は様々な体験活動に取り組むことができている。

〇親子で学ぶ愛日学級

各学年が年１回，参観日に親子で体験学習を行い，親子のふれあいを大切にすると共に学ぶ楽しさを味わう「愛日学級」を実施している。準備や計画，当日の運営などは，保護者が行い，子どもたちは楽しく活動したり，興味深く学習したりしたりすることで，様々な道徳的価値に触れる機会となっている。

《平成２８年度》 ふれあい動物園（１年） 紙すき体験（２年）
防犯教室（３年） 体力と生活習慣づくり（４年）
防犯と戦う科学調査（５年） 藍染めＴシャツづくり（６年）

ふれあい動物園（１年）

紙すき体験（２年）

藍染めＴシャツづくり（６年）

〇阿波踊り育成出前講座

第６学年の総合的な学習「成長実感！阿波踊りプロジェクト」では，地元の蜂須賀連をゲストティーチャーに迎えて阿波踊りの指導をしていただき，８月の阿波踊り演舞場での本番を目指し練習に取り組んだ。春に自分で染めた藍染めＴシャツを身につけ，本番はもとより，運動会でも地域の方々に見事な踊りを披露することができた。この活動を通して，郷土の伝統や文化を大切にし，郷土を愛する心を育むことができた。

蜂須賀連の方による阿波踊りの指導

愛日連演舞場踊り込み

○保護者による絵本の読み聞かせ

毎週水曜日の朝の活動の時間に，「佐古お話の会ミミ」の保護者による絵本の読み聞かせを行っている。この活動を通して，感動したり想像したりする豊かな心や読み手に対して耳や心を傾けて聴く態度を育てている。

○佐古放課後子ども教室

俳句教室

放課後における子どもたちの安全・安心な居場所づくりを目的とし，地域の方々の協力を得て，文化的活動および地域の方々との交流を行うものとして活動を続けている。紙芝居，俳句，折り紙，論語などの教室があり，子ども教室を利用している児童は，興味をもって活動に取り組み，地域の方々とふれあいながら道徳性を高め，放課後の時間を楽しく過ごすことができている。

○地域の方による生花・お茶，和太鼓クラブの指導

クラブ活動の時間に，地域の方にボランティアで和太鼓クラブの指導をしていただいている。代々先輩から後輩へと受け継がれている曲「愛日太鼓」を子どもたちは大切にし，演奏している。生け花・お茶クラブでも，地域の方を講師に迎え，子どもたちは意欲的に活動している。このようなクラブ活動により，日本の伝統や文化を愛する心が育っている。

○お年寄り宅の訪問

毎年，全校児童が，佐古地区で暮らすお年寄りに，メダルつきのレイやメッセージカード，ちぎり絵などの手作りプレゼントを作成し，なかよし委員会が，手作りプレゼントを持ってお年寄り宅を訪問している。高齢者をいたわり，大切に思う気持ちが育つ機会となっている。

○愛日ふれあい広場

保護者の企画・運営により，１１月に愛日ふれあい広場・ＰＴＡバザーが開かれている。保護者が，学年ごとに興味をもって楽しめる体験活動（出し物）を企画・運営し，児童・保護者・地域を結び，「ふれあい」の時間が過ごせるＰＴＡ行事になっている。

「スーパーボールロケット」
づくり（１年）

○道徳教育講演会の実施

子どもの豊かな人間性や道徳性の育成をねらいとし，保護者・教員を対象に道徳教育講演会を実施した。講師に，庄形みどり先生をお招きし，子どもの心を育てるために大切なことや子どもへの望ましいかかわり方について講演を聴くことができた。今後も家庭と学校が連携し，子どもの「心の教育」にあたっていくことの大切さを再確認できる機会となった。

○校長室だより

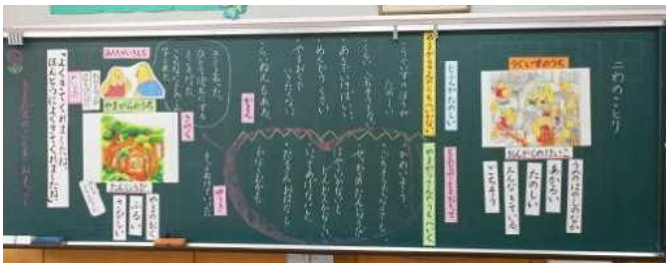
学校の教育方針や教育活動について共通理解を図り，学校教育に関する理解を深めることをねらいとして，毎月１回各家庭に配布している。学校行事の様子や児童の姿を紹介し，児童のよさや頑張り，成長を伝えている。また，家庭教育の参考になるようなコラムも掲載し，児童の人間性や道徳性の育成につなげている。

（２） 道徳の時間の充実

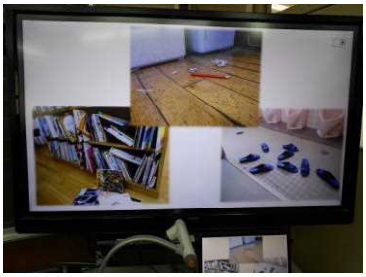
①指導方法の工夫

○資料提示の工夫

低学年では，児童が資料の内容を理解しやすいように紙芝居や場面絵，主人公の表情が描かれた顔の絵などを活用した。主人公の心情を共感的に捉えさせたり，最後まで意欲的に学習に参加させたりする上で効果的だった。第３学年では，「規則の尊重」をねらいとした授業の導入や終末でＩＣＴ機器を活用した。ＩＣＴを効果的に活用することで，ねらいとする価値へ意識を向けさせたり，資料の内容や自分たちの生活に興味・関心をもたせたりしながら学習を展開することができた。



「二わのことり」（１年）



「みんなのわき水」（３年）

○板書の工夫

文字の大きさや位置，資料の提示場所，全体の配分などを考え，児童に学習内容を視覚的に分かりやすく伝えられるようにした。場面の一枚絵を貼ったり，キーワードとなる言葉，ポイントとなる発言を提示したりして，追求していく価値が分かりやすくなるよう工夫した。資料の一枚絵を提示する際は，絵の位置を心情に重ねたり，心情曲線を入れたりするなど，主人公の心の変容に寄り添えるような工夫をした。第５学年では，導入でその時間に学習する道徳的価値について考えたことを，授業の板書とは別の場所に板書し，終末時にあらためて考え，どのように道徳的価値についての考えが変わったかが分かるようにした。そうすることで，自己の考えの変容や深まりを視覚的に実感することが

できた。

「雨の日」（３年）

「手品師」（５年）

○話し合い活動の工夫

ペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れることで，自分の意見と友達の意見の共通点や相違点を知り，多様な考えにふれながら自分自身を見つめ，思考を深めることができた。第５・６学年では，ホワイトボードを活用し，一人一人が思いや考えを書いたり，少人数グループで話し合ったことをまとめたりして，全体に伝えた。そうすることで，互いの思いを知ったり，道徳的価値の理解を広げ深めることができた。児童全員に自己表現の場が与えられることで，主体的に参加しやすく，学習への参加意欲も高まった。

ペアでの話し合い

グループでの話し合い

ホワイトボードの活用

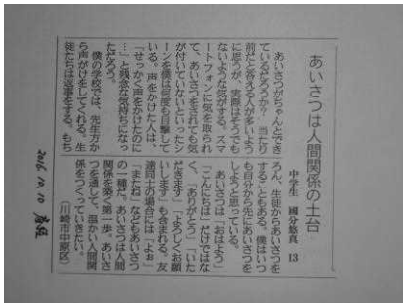
○役割演技の活用

第１学年では，主人公の心理的な葛藤がピークに達した場面で役割演技を取り入れ，主人公の葛藤する気持ちに共感し，自分のこととしてとらえることができた。また，役割を交代することにより，ありのままの自分を客観的に見つめることもできた。演技を見ている側も自分の考えと友達の考えを比べながら考えを深め，主人公の心情を深くとらえることができた。役割演技の活用は，自分の思いを素直に表現したり，友達の多様な感じ方や考え方に触れ物事を多面的に見つめたりするのに有効であった。

役割演技（１年）

○新聞記事の活用

第６学年では，道徳の時間に，新聞記事（読者からの投稿記事）の中から，児童の実態に合わせて，礼儀や感謝，規則尊重など児童が日常の体験を想起し実感を深めやすい内容の記事を選び，タイムリーに活用した。投稿者が中学生



あいさつは人間関係の土台

中学生　綱分敏真　13

あいさつがちゃんとできる人、生徒からあいさつをすることもある。僕はいつも自分から先にあいさつをしようと思っている。

あいさつは「おはよう」「こんにちは」だけではなく、「ありがとう」「いただきます」「よろしくお願いします」等、多様な言葉を見聞して、適切な場合には「よお」「さっ」と声をかけたりなどの一言に、あいさつは人間関係を築く第一歩。あいさつを通して、温かい人間関係をつくっていきたい。

川崎市中原区

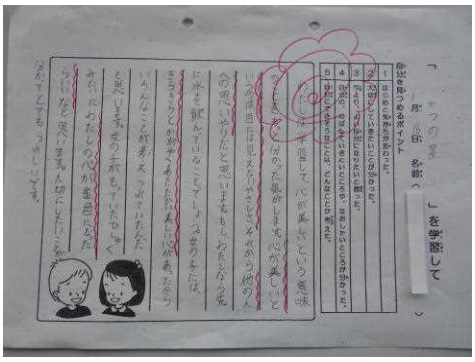
であるなど，自分たちと同世代が投稿した記事は，特に児童の興味・関心を引き寄せた。記事を読んだ後，感想を交流したり，自分自身の体験を語ったりしながら，自分とのかかわりで考え，道徳的価値に迫った。新聞記事を効果的に活用することにより，自己を見つめ，よりよく生きることへの自覚が芽生え価値理解を深めることができた。

○発問の工夫

校内研修で，鳴門教育大学の金野先生より指導方法についての研修を受け，資料分析の仕方や児童が道徳的価値に迫るための中心的な発問について研修を深めた。主人公の気持ちの変化や葛藤する気持ちについて，児童の心を揺さぶり本音を引き出せるような発問を工夫することにより，多様な考えを引き出し道徳的価値を深めることができるようになってきた。また，子どもたち一人一人が，各自の体験を意識しながら話し合いを深められるよう，導入や展開，終末において，日常の体験が意識できるような発問を工夫し，学習内容を日常生活に関連づけ実践への意識化を図った。

○自己を見つめるワークシートの活用

道徳の時間に，自分とのかかわりで道徳的価値を捉えさせ，自己の道徳的な成長が実感できるようにするため，自己を見つめるための５つのポイントを表記したワークシートを作成した。５つのポイントを基に，思いや考えを書く活動を通して，自分の考えを見つめ整理したり，ねらいとする価値を自分のこととして捉えたりすることができ，児童の自己を見つめる目を育てることができた。記入したワークシートは，道徳ファイル「こころのまど」に綴じていき，児童が自分の心の変化や成長を確かめることができるようにした。



《自己を見つめるための５つのポイント》

1　はじめと気持ちが変わった。
2　大切にしていきたいことが分かった。
3　今より，よい自分になりたいと思った。
4　自分の，のばしていきたいところや，なおしたいところが分かった。

５　自分にできそうなことは，どんなことか考えた。

（平成２５年度八万南小学校道徳教育研究大会研究紀要　参照）

《自己を見つめるワークシートに記述された児童の感想》

道徳的心情	・やさしいこころはたいせつなんだな。 ・あいさつは，だいじなあさのうただとおもった。 ・友だちはやっぱりたからものだなあとおもった。 ・家ぞくのためにお手伝いをすることはたのしい。 ・だれにたいしてもあいさつができることが大切だと思う。 ・けんかをしたとき，相手の方から「ごめん」と言ってくれたのがうれしかった。 ・誠実に行動するというのは，とてもむずかしいことだ。
道徳的判断力	・がまんしないといけないことがあるとわかった。 ・自分にもいいところがあるんだと気付いた。 ・だれとでも遊んでなかよくなることが大切だと分かった。 ・あたたかい気持ちで人の心が変わっていくんだなと思った。 ・人の気持ちを考えて言葉を言うことが大切だと分かった。 ・自分にうそをつかないことが大切だと気付いた。 ・学校を大切にするというのは，伝統を受け継いだりみんなの心を大切にすることなんだなと思った。
道徳的実践意欲・態度	・小さい子がこまっていたらこえをかけてあげたい。 ・やさしく思いやりのある人になりたい。 ・これからも，自分のいいところを大切にしていきたい。 ・次に使う人のことを考えて行動したい。 ・家族のために，これからもお手伝いを続けていきたい。 ・自分から「ごめん。」や「ありがとう。」などの言葉を言うようにしていきたい。 ・命のことをよく考えて，命を大切にしていきたい。 ・自分や他の人に対して誠実に行動できるようにがんばりたい。 ・他の人の役に立ったり，他の人が気持ちよくなることを続けたい。 ・近所のあまり話したことがない人にも自分からあいさつをしたい。

上記の結果から，「大切だと思う」「うれしい」などの道徳的心情に関わる記述が見られただけでなく，「気付いた」「分かった」などの道徳的判断力に関わる記述や，「していきたい」「がんばりたい」「続けたい」という道徳的実践意欲・態度に関わる記述も見られた。これらのことから，児童が自己を見つめ，よりよい自分になろうと自覚し，道徳の時間に学んだ道徳的価値を日常生活につなげ，意識して生活していこうとする姿をうかがうことができた。

②体験活動との効果的な関連

○特別支援学級「星花学級」の実践

４学級が合同で行う朝の活動の時間に，児童の生活に関連した課題を絵や劇で提示し，「礼儀」や「規則の尊重」「友情，信頼」など道徳的価値について考え話し合う時間を設けている。しかけのある絵や具体的な劇を見ることで，興味をもち，課題を生活と重ね合わせてとらえることができた。その後，各教室に，同じ絵や約束の文章を掲示しておき，意識の継続を図った。

毎年秋に行われるＰＴＡ行事「愛日ふれあい広場」では，星花バザーの出店をしている。バザーの準備を進める中で，商品の製作や接客・お金の計算の練習，お店の設営など，児童が主体的に取り組めるよう支援をしながら活動に取り組ませた。体験活動を通して，それまでに学んだ様々な道徳的価値の意味や大切さを実感し，実際の行動へとつながる道徳的実践力を高めることができた。また，「力を合わせ，お客さんに喜んでもらう」というめあてを達成し，バザーを成功させたことが自信となり，自尊感情や自己肯定感も向上した。

○第１学年の実践

第１学年では，生活科の「あさがおをそだてよう」の学習で，あさがおの世話の仕方を学び，あさがおの変化や成長に合わせて水やり・肥料やりなどの世話を続けた。しかし，児童の興味・関心が一時的で長続きしないこともあった。そこで，道徳の時間に資料「あさがおさんのみになって」を活用し，自分たちの体験と重ね合わせ植物を育てる苦労や喜びに共感させながら，動植物の身になって考えることにより，継続的に優しい心で世話をしようとする心情を育てた。

○第２学年の実践

第２学年では，「おもちゃランドであそぼう」の学習で，１年生を招待するにあたり，道徳の時間に資料「ぼくは二年生」を使って授業をし，幼い人に対して思いやりの心をもち親切にしようとする意欲を高めた。１年生を招待する日に向かって，楽しんでもらえるようおもちゃづくりやプレゼントづくりを工夫し，当日は，自主的に１年生に声をかけたり，遊び方のルールや遊び方のこつを優しく教えたりして，自分らしさを発揮し生き生きと活動した。体験活動を通して，１年生を喜ばせることができたという満足感が得られ，これまでとは違う自分の成長にも気付くことができた。

○第４学年の実践

第４学年では，身の周りにある日本の伝統，文化に気づかせ，そのよさを子どもに再認識させたいと考えた。道徳の時間に，わたしたちの道徳で，日本の伝統や文化について知り，道徳の資料「ふろしき」では，そのよさに気づき，大切にしようとする心情を育んだ。社会科の学習でもいろいろな伝統工業について学び，興味・関心を高めた。さらに，春や秋の遠足で，大谷焼や藍染め，天狗久など，徳島の伝統的な工芸に触れる体験活動を行い，児童は興味をもち意欲的に活動に取り組んだ。このように体験活動を関連させることにより，日本の文化，伝統のよさに気付き，今まで以上に大切にしようとする心情を育てることができた。

③授業力の向上を目指して

教職員の研修では，講師を招き，「特別の教科 道徳」の実施に向けて，これからの道徳の時間の在り方について研修したり，道徳の授業力の向上を図るため，授業についての具体的な指導方法についての研修を深めた。

６月　「これからの道徳教育」講師　学校教育課　笹田葉子先生
８月　「道徳の時間の授業改善」講師　鳴門教育大学　金野誠志先生
（資料分析・発問の仕方，読み物資料を用いての演習等）
９月　各学年の道徳教育の取り組みについての情報交換
自分を見つめるワークシートの評価の仕方について
10 月　１年道徳研究授業 資料「二わのことり」
研究協議　指導助言　庄形みどり先生
10 月　ＰＴＡ道徳教育講演会　講師　庄形みどり先生
「特別の教科 道徳」「子どもの心を育てるために」
12 月　３年道徳研究授業　資料「雨の日」
研究協議　指導助言　金野誠志先生
12 月　５年道徳研究授業　資料「手品師」
１月　各学年の道徳教育の取り組みについてのまとめ

４　研究の成果

（１）道徳アンケート調査の結果より

本年度６月と１２月に全校児童を対象として行った道徳アンケート調査を比較すると，次のような結果になった。

アンケートの中で，「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を合わせると，「道徳の時間」についての項目では，全児童の割合は，「道徳の時間の勉強は，好きである」が，86.5 ％から 89.3　％に，「道徳の時間の勉強は，ためになると思う」が，94.5 ％から 97.7　％に，「道徳の時間では，ほかの人の考えを聞きながら，自分のことについてよく考えている」が，85.6 ％から 89.6 ％にと，肯定的回答の割合が高くなった。道徳の授業実践が意義あるものになり，道徳の時間の学習に意欲的に取り組む児童が増えてきたと考える。

「人とのかかわりや規範意識」についての項目では，全学年を通して向上している項目が多く，特に「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」や「家族や友だち，地域の人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目では，全学年で伸びが見られた。道徳的実践意欲の高まりが感じられる。全学年の重点項目である「思いやり」に関する項目についても，全体では 85.1 ％から 87.2 ％に向上した。全校で取り組んだ「あいさつ」についての項目でも，向上している学年が多く，「人に出会ったときは，進んであいさつをしている」の全体での肯定的回答の割合は，88.5 ％から 94.7　％に向上した。

一方，「基本的な生活習慣，自立心・自律性」の項目の中で，家庭での「早寝，早起き，朝ごはん」や，「前日準備」「勉強や遊びの時間」に関する項目では，肯定的回答の割合が低くなっている学年が多かった。家庭の事情で基本的生活習慣の確立が難しい児童もいるが，今後さらに学校からよりよい子どもの育成についての情報を発信し，家庭と連携しながら児童の道徳性の育成を図っていく必要がある。

また，「自尊感情」に関わる項目においても，学年によって肯定的な回答の割合に差が見られた。数値が上がっている理由としては，「成功体験が増え，自信がついてきた。」「周りから認められたことで自主的な活動ができるようになった。」「新しいことにチャレンジしたいという前向きな気持ちがうまれた。」「失敗しても大丈夫という周囲の温かい雰囲気がある。」「学校の一員としての役割が増え，自覚をもって活動できるようになった。」などの背景が考えられた。数値が下がっている理由としては，「自分自身を客観的に見つめることができるようになった。」「周りの友達と自分を比較して見るようになった。」「自分や家庭の評価基準が高く，より高いレベルを求められている。」などが考えられる。自尊感情が低い児童は，他の項目も低く自己評価をしているように感じられる。今後とも，豊かなかかわりを通して，児童一人一人が自己を見つめ，自分自身のよさや可能性に気づき，自信をもつことができるように支援していきたい。

各学年について見ると、星花学級では，「善悪の判断」が 77.8　％から 94.5　％に，１学年では，「地域や社会への興味・関心」が 26.4 ％から 80.2 ％に，２学年では，「約束を守る」が 88.9 ％から 96.3 ％に，３学年では，「学校のきまりを守る」が 90.8 ％から 96.4 ％に，４学年では「人がこまっているときは，進んで助ける」が 85.0 ％から 92.6 ％に，５学年では，「学校の一員としての役割や責任を果たす」が 88.2　％から 93.7　％に，６学年では，「地域や社会への興味・関心」が 51.1　％から 61.6　％にそれぞれ向上した。

（２）実践の成果

①全校で取り組む体験活動を通した道徳教育について

〇全校であいさつの活性化に取り組んだことにより，周りの人との関わりが深まり，自ら考え行動したり自主的に活動したりする姿が見られるようになった。

〇様々な体験活動を通して，人への関心が高まり，自分のことだけ考えるのではなく，周りの人を意識した行動ができるようになってきた。また，自分や友達のよさや成長に気付くことができた。共通の体験を行うことにより，共有できる規範意識が生まれ，道徳的価値の自覚を深めることができた。

〇特に高学年では，あいさつ運動や異学年集団による活動，ボランティア活動等で，リーダーとして活動し，周りの人から高く評価されることにより，充実感や達成感が得られ，さらに，「周りの人のために自分ができることをしたい」「人の役に立ちたい」という実践意欲が向上した。

②「道徳の時間」の充実について

〇校内研修での研究授業や，講師による授業についての研修を通して，教職員の「道徳の時間」に対する意識が高まり，指導方法の工夫・改善を図ることができた。ねらいとする価値の自覚化を図るために，児童の実態をふまえ，どの場面を中心に考えさせるのか，どんな活動を通して深めさせるのかなどを意識しながら授業を構想することができるようになってきた。特に，発問については，資料分析や中心的な発問の仕方について考える演習を通して，道徳的価値に迫るためのポイントをつかむことができた。

〇資料提示や板書，発問，話し合い活動，表現活動等の工夫や，新聞記事やＩＣＴの活用などにより，児童が知的な理解を深めたり，多様な考え方や感じ方に触れたりすることができ，自己の生き方についての考えを深めることができた。

〇自己を見つめるワークシートに設定した「自己を見つめる５つのポイント」は，児童が自己を見つめる際の大きな手立てとなり，資料で学んだねらいとする価値に照らして自己を見つめる上で大変効果的だった。ワークシートに書く回数を重ねることにより，児童が自分自身を客観的に見つめられるようになり，自分の成長にも気付くことができた。

〇体験活動を「道徳の時間」の指導に生かしたり，各教科等における道徳教育と「道徳の時間」の指導との関連を図ったりすることは，児童の興味・関心を高め，問題意識を明確にするなど，自己を見つめる上で有効であった。またそれによって，児童が「道徳の時間」の学習と日常生活のつながりを意識して生活できるようになってきた。

５　今後の課題

〇道徳の授業や体験活動の後は，児童の道徳的価値に対する意識や実践力が高まっているが，継続させることが難しい。常に教師が意識的に声をかけたり繰り返し指導したりし，道徳的価値を児童に定着させていくことが必要である。

〇学級全体の中では自分の考えをうまく表現できない児童がいるため，少人数での他者対話をさらに効果的な活動にしていく。道徳の時間だけでなく，国語科を中心に他教科の中でも，意識して話し合い活動の機会を設け，自分の考えを表現させていきたい。話すことや聞くことのスキルや技能を高めると同時に，自分や他

人の考えを大切にしようとする心情や互いの考えが大切にされる学級の基盤をつくっていくことが必要だと考える。

◯振り返りのワークシートに記述する時間の確保が難しい。書く活動を取り入れるためには，発問の精選など効率的な授業展開をすることが重要であると考える。個々の書く力においても，個人差が見られるため，日頃から，自分の思いを表現する力を育てていくことが必要である。

◯授業を効率よく進めるための教材を充実させる。授業で活用した教材・掲示物等を学年で保管し，継続的に活用しやすいようにしていく。児童の実態に合った教材や資料を見つけることも今後の課題である。

◯道徳の時間に，自分とのかかわりで道徳的価値をとらえさせ，自らの体験を通して，道徳的価値の意味や大切さなどを考えることができるよう，道徳の時間の年間計画や全体計画別葉をもとに，道徳の時間と各教科・行事等の体験活動とを効果的に関連づけた学習をさらに計画的に実施していきたい。

◯家庭や地域に，道徳教育の実践や道徳の時間に学習したことを紹介したり，児童の取り組みや成長・課題などを発信したりしていくことは，保護者や地域の方々の道徳教育への意識を高めていく上で有効である。今後は学校から家庭や地域へ発信する内容や方法を工夫するなど，さらに家庭や地域との連携を図っていく必要がある。

◯教職員の道徳の授業力をさらに向上させるため，今年度の研修で得られた成果をもとに，引き続き，指導方法の改善に努めるとともに，効果的な教職員研修を実施していく。また，今後は道徳の教科化に向けて，評価の在り方についての研修も深めていきたい。

6　おわりに

本研究指定を受け，学校全体で道徳教育の方向性について共通理解をしながら実践に取り組んだことにより，児童の豊かな心の育成について，指導の効果を実感することができた。今後は，本研究の成果や課題をふまえ，児童の道徳性を高める取り組みを継続していきたい。特に，さらに豊かなかかわりをもつことができる体験活動や道徳の時間の学習の充実を図り，道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め，よりよい生き方を主体的に実現していこうとする児童を育成していきたい。